

令和5年度 学校評価（生徒）

あてはまらない→1 あまりあてはまらない→2 ややあてはまる→3 あてはまる→4

	評価項目	回答(%)				あてはまらない	あまり	やや	よくあてはまる
		1	2	3	4				
2	家庭での学習は定着している。	29	37	25	9				
3	進路決定に向けて先生方は情報を提供してくれたり、相談にのってくれるなど、きめ細かく指導してくれている。	7	10	45	38				
4	科目選択に関してが だ が充実している。	7	16	55	22				
5	各種の資格・検定の受験率や合格率向上のための指導を十分してくれている。	8	13	46	32				
6	授業の中でコンピュータやビデオなどの情報機器や視聴覚機器がよく使用されている。	5	11	46	38				
7	内容がわかりやすく魅力ある授業が多い。	8	25	49	18				
8	学習の評価はテストの得点だけでなく、授業態度や生徒の努力なども含めて行われている。	5	8	40	47				
9	学校で地震や火災などの災害が起こった場合、どのように行動すれば良いか知らされている。	5	13	40	42				
10	学校の施設・設備は授業や学校生活がしやすいよう整備されている。	13	27	39	21				
11	地域の人は学校に関心を持っていると感じることが多い。	10	26	46	18				
12	社会のルールや日常生活のマナーといった基本的な生活習慣が身に付くよう先生は指導してくれている。	5	12	48	35				
13	学校は奉仕活動やボランティア活動などに積極的に取り組んでいる。	9	14	37	40				
14	学校生活に関する指導方針や指導方法について納得できる。	13	23	42	22				
15	先生に悩みや相談がしやすい雰囲気がある。	10	15	49	26				
16	先生は自分たちの意見を大切にしてくれていると感じる。	7	12	46	35				
17	学校の部活動は活発である。	9	19	44	28				
18	人権の大切さを学び、それが日常生活に生かされている。	4	14	50	32				
19	感動できる学校行事があり、楽しく参加できるよう工夫されている。	6	13	48	32				
20	科目選択は興味、関心、適正、進路希望に応じて選択できるようにしてくれている。	6	10	47	37				
21	LHRの時間をクラスづくりなどに有効に利用している。	6	13	49	32				
22	特色のある学校を目指していると感じる。	10	20	46	24				
23	総合学科の生徒として自ら考え行動できるようになった。	7	17	49	28				
24	緑陽生として誇りを持っている。	15	16	47	22				

0% 20% 40% 60% 80% 100%

令和5年度 学校評価（保護者）

あてはまらない→1 あまりあてはまらない→2 ややあてはまる→3 あてはまる→4

	評価項目	回答(%)				あてはまらない	あまり	やや	あてはまる
		1	2	3	4				
1	子どもの家庭での学習は定着している。	10	40	41	9				
2	進路決定に向けて情報を提供してくれたり相談にのってくれるなど、きめ細かい指導がなされている。	3	17	60	20				
3	科目選択の担任による面談や相談は、きめ細かく行われていると感じる。	3	18	62	18				
4	子どもは授業の内容を理解しているようだ。	4	22	64	10				
5	学習の評価はテストの得点だけでなく、授業態度や子どもの努力なども含めて行われている。	2	9	59	30				
6	生活面はもちろん、施設や設備面も含め、子どもを安心して任せられる学校である。	3	19	53	25				
7	子どもの出欠や学習状況など学校生活について家庭への連絡がよくなされている。	4	17	47	32				
8	学校は家庭からの連絡や相談に適切に対応している。	1	10	51	38				
9	保護者面談は回数、質ともに満足できる。	2	8	55	35				
10	保護者や地域の人々が積極的に参加できるように学校行事を工夫している。	2	13	66	19				
11	保護者は学校に関心を持っていると感じることが多い。	5	35	51	9				
12	学校はPTA活動に対して支援・促進に努めている。	4	20	64	13				
13	社会のルールや日常生活のマナーといった基本的な生活習慣が身に付くよう学校は指導している。	3	14	56	26				
14	学校は奉仕活動やボランティア活動などに積極的に取り組んでいる。	1	14	60	24				
15	学校の生徒指導方針に共感、理解できる。	4	20	57	19				
16	教員は、子どもの相談、質問等に的確に対応している。	3	13	61	23				
17	教員は、子どもの多様な意見を大切にしている。	4	17	60	19				
18	学校の部活動は活発である。	6	24	52	18				
19	学校は全ての教育活動について生徒の人権を尊重する姿勢で教育にあたっている。	3	16	64	17				
20	楽しく参加できるよう、学校行事は工夫されている。	2	11	62	25				
21	選択科目は興味、関心、適性、進路希望に応じて選択できるようになっている。	2	6	68	24				
22	特色のある学校を目指していると感じる。	4	19	55	22				
23	子どもは高校生として自ら考え行動できるようになっている。	2	14	59	26				
24	子どもは備前緑陽高校の生徒として誇りをもっている。	6	20	54	20				

0% 20% 40% 60% 80% 100%

令和5年度「具体的な学校経営目標・計画」

岡山県立備前緑陽高等学校

- 基本方針： 魅力発信力の強化 ①生徒たちの自己肯定感・緑陽プライト[®]の育成(生徒口コミ発信)
 ②地域連携活動や広報活動の充実(直接的発信)

(1) 「分かる・できる」授業づくりの確立を目指し、授業力の一層の向上に向けた取組を推進して、生徒の学習意欲を喚起するとともに、安全で安心な学習環境を整備する。

担当	具体的方策	達成基準	達成状況(2月1日時点)	評価
教務課	生徒の学習意欲を喚起するため「分かる・できる」授業づくりを推進するとともに、ICTを活用した新しい学びについて研究する。そのため、課内のチームや教員研修等による取組により授業力向上を図るとともに、ICT活用に向けたハード・ソフト両面の整備を行い、その成果を「見える化」し共有する。	学校評価アンケート(生徒)の項目「内容がわかりやすく魅力ある授業が多い」の肯定回答が70%以上となる。	Chromebookと言語活動の充実をテーマとした校内研修を2回実施。その実践場所として、2回の授業公開週間を実施。ICT環境の整備については、順次行っており、活用方法についても、事例をまとめ「見える化」した。学校評価アンケートでも目標を達成した。	A
教務課(図書)	貸出冊数が増えるように図書室便りを定期的に発行したり、生徒からのリクエスト箱を設置し多様なジャンルの本を整備することで、生徒が読書に親しめる環境を整える。	図書室便りを定期的に発行するとともに、年度末に年間まとめ月号を作成する。	図書便りは、年3回発行した。また、生徒の意見も取り入れながらの本の購入と併せて除籍にも取り組んだ。	B
生活課	全校生徒が、元気な声で心のこもった気持ちの良いあいさつができるようになる。教員側から生徒の手本になるあいさつをする。	ほぼ全員(95%以上)の生徒が、元気な声で心のこもった気持ちの良いあいさつができるようになる。	多くの生徒が自発的に挨拶ができているが、ほぼ全員とはいかない。また、こちらから挨拶をすることで、できる者も多い。	B
生活課(厚生)	校内美化活動を通じて安全で安心な環境を整える。ロッカールーム(特に男子)の美化、全員清掃の徹底、清掃開始時間の厳守、掃除器具庫の整備(教員)を行う。	安全点検が確実に実施され、整備が必要な個所が減少する。	清掃時間や日直時の鍵しめ巡回等でロッカールームに訪室し度々指導することでおおむね美化が保たれた。全員清掃は、監督教員が不在生徒を確認し担任に連絡をすることで指導ができた。月1回の安全点検で出てきた改善すべき点については対応した。	B
進路課	・進路希望に応じた補習等などの指導を実施し、教務と連携して、学習習慣の育成と学力の向上を図る。 ・基礎力診断テスト結果に基づき、生徒個々に応じた学習課題に取り組ませる。 ・進路希望ごとの試験対策補習等を実施し、学力と面接力を育成する。	・学習時間調査で平均学習時間が、1年は60分以上、2・3年は120分以上の割合が60%以上となる。 ・国公立大学に2名以上合格する。 ・就職希望者内定率を卒業までに100%達成する。	国公立大学 3名合格 学校推薦を希望した生徒の内定率100% 第2回・第4回の平均学習時間 1年:R4 2.30h → R5 2.48h 2年:R4 2.15h → R5 2.15h	A
びぜんのまち活性化プロジェクト推進室	・「産業社会と人間」「びぜんみらい学」において、連携団体と協力して探究活動や発表を行い、生徒の探究意欲を喚起する。	・校内外の連携組織の協力体制を整理する。 ・フィールドワークや発表の機会を各1回以上確保する。 ・探究意欲、基礎的・汎用的能力、主体的・協働的に学ぶ態度のアンケート項目において、肯定回答が50%以上となる。	「卒業生を囲む会」「備前市産業フェスタ」で進路課と連携したり、備前市企画課他、備前商工会議所、備前観光協会、備前市公民館など、地域の諸団体と連携。2年次生はフィールドワーク、3年次生は各ゼミ活動、最終報告会を実施。3年次生103名にアンケートしたところ、肯定的な回答が大半であった。	A
学年団	1年:基本的な生活習慣の確立 2年:進路に対する意欲を高め、進路実現へ向けて行動を起こす 3年:進路実現に向け、時間をかけた具体的な行動を促す	1年:5分前着席、課題提出期限厳守、欠席ゼロの生徒が25%以上 2年:定期考査前学習時間120分以上の割合60%以上、資格取得生徒数の増加、就職補習の課題提出・サタセミ参加の徹底 3年:定期考査前学習時間120分以上の割合60%以上、OS・職場見学に複数回参加が80%以上	1年:始業前着席及び課題提出指導は概ねできている。欠席ゼロの生徒36名(29%)。 2年:平均学習時間120分以上の生徒が減少。資格取得生徒数の増加は見られない。 3年:平均学習時間120分以上60%未満、OS・職場見学複数回参加45%、就職補習・サタセミは出席率80%以上	1年 A 2年 C 3年 B

(2) 教育活動全般や地域連携活動を通して人間力の育成を図るとともに、生徒の主体的な活動を支援する。

担当	具体的方策	達成基準	中間期達成状況(12月1日時点)	評価
教務課	緑陽型学習指導のスタンダードを基に「ねらい」と「振り返り」のサイクルの定着、生徒の「困り感」に寄り添った授業展開ができるよう支援する。また、生徒に「授業5+1」を意識させ、授業に取り組ませる。	学校評価アンケート(教員)の項目「魅力ある授業づくりに努力している」の「よく当てはまる」の回答が昨年度(33%)を上回る。	校内研修で、教職員が「ねらい」、「振り返り」、スモールステップのサイクルの重要性を共通理解した上で、授業に取り組み、学校評価アンケートでも目標を達成した。	B
広報情報課	「生徒の顔が見える広報活動」で、中学生や地域に信頼され、進んで進学したいと思われる学校となるため、生徒が主役のオープンスクールや中学校にとって魅力的な出前授業を実施するとともに、学校行事等をHPやブログ、Youtube等にアップする。	オープンスクール動員160名以上、出前授業3件以上、ブログ更新80件、Youtubeへの動画投稿10件以上。	オープンスクール参加人数138名、出前授業3件、ブログ更新82件、YouTube投稿10件	B
生活課	・主体的な行動や人間力向上の支援により、学校の活性化を図る。 ・チャイム前着席が100%できるようになる。 ・部活動を活性化させる。	・チャイム前着席が100%できるようになる。 ・前年度の部活動加入率を上回る。(R4:59.1%)	多くの生徒は時間を気にしながらチャイム前に教室に入り準備ができている。しかし教員の声かけできている生徒も少数だがいる。引き続き注意していきたい。 部活動加入率 R5:54.1% (R4:59.1%)	B
教育相談	・教職員・保護者・SC・SSWが連携を取りながら、生徒をサポートし、安全安心な環境を整える。 ・学校生活に関するアンケートや心理検査(i-check)を年2回実施し、生徒の学校環境への適応感や心理状態を把握するとともに、指導に生かしていく。 ・教育相談だよりを各学期1回以上発行し生徒のメンタルヘルスの保ち方などを発信する。	教育相談室の利用が活性化する。(R4:相談室利用 生徒のべ人数70名)	カウンセリング人数は、生徒のべ60名程度、保護者のべ4名、教員1名であった。アンケート結果や心理検査をもとに面談時に担任から声掛けをし、カウンセリングにつなげられた。ケース会議は全10回、該当生徒4名。ケース会議参加者は、外部機関と協力して支援体制が構築された。教育相談だよりは、係内で分担して5号出すことができた。	A
進路課	・Bプロ室(「総合的な探求の学習」「産業社会と人間」などの授業)および広報情報課と連携する中で、キャリア教育、地域連携活動、社会体験活動を推進することで、進路意識を高め、早い時期での進路目標の設定を図る。 ・表現力、コミュニケーション力をさらに向上させるとともに社会人としての良識を身につけさせる。	・2年生のインターンシップ参加10名以上(R4:8名) ・学校評価アンケートの「進路決定の指導」の評価が前年度平均を上回る。(R4:生徒80% 保護者77%)	インターンシップは25名(福祉施設、備前商工会主催バスツアーも含む)学校評価アンケートは、昨年度と同じであった。	B
びぜんのまち活性化プロジェクト推進室	・校内および地域と連携し、社会貢献活動に取り組むことをとおして、地域を愛し貢献する態度を育成する。	・社会貢献活動の制度を再構築する。 ・アンケートによる地域を愛し貢献する態度の項目において、生徒の肯定的回答が50%以上	Ryokuyou社会貢献アワード新設、ポイント制の見直しを実施。1/2年生220名にアンケートした結果、社会貢献活動の参加により「社会の一員としての自覚が持てるか」「地域を愛し貢献しようという気持ちになるか」という問いで約90%が肯定回答であった。申し込み・報告の電子化により、利便性の向上と負担軽減にもつながった。	A
学年団	1年:生徒の主体的な活動を促す。 2年:生徒の主体的な活動を促し、学校生活の魅力に気付かせる。 3年:進路の場面で「高校生活で頑張ったこと」を明言できるような活動を促す。	1年:部活動加入率60%以上、全員が社会貢献活動年1回以上 2年:部活動・生徒会加入率60%以上、全員が社会貢献活動年1回以上 3年:「頑張ったこと」として、学校行事、部活動、社会貢献活動を上げる。全員が社会貢献活動を年1回以上	1年:部活動加入率54%、社会貢献活動25%(1/18時点) 2年:部活動・生徒会継続率、社会貢献活動年1回以上ともに60%未満 3年:頑張ったことは達成、社会貢献活動年1回以上35%	1年 C 2年 C 3年 B

(3) 生徒と向き合う時間の確保のため、確実に業務を遂行するとともに、業務のスリム化・効率化及び時間管理意識の高揚を推進し、実践する。

担当	具体的方策	達成基準	中間期達成状況(12月1日時点)	評価
全体	・業務量把握のため、個人の時間管理を徹底する。 ・ICT担当を中心に、校務のICT化に3つ以上取り組む。 ・部活動顧問の協力体制を構築する。(休日の活動及び引率の分担等)	月あたり時間外在校等時間を前年度から5%以上削減する。(R4:41.6時間)	職員・生徒の朝礼連絡用ポータルサイト、オンライン欠席連絡、自動採点システムを導入し、あすかぶたによる業務の精選と見直しを行い、時間外業務を削減することができた。 月あたり時間外在校等時間:34.5時間(R5.4~R6.1) (43.1時間(R4.4~R5.1))	A
教務課	個々人が時間管理意識を持ち、基本的な仕事の進め方(報告・連絡・相談)を担当者間(課長等含む)で共有し、定期考査実施、成績処理、科目選択事務、教科書採択事務、入試事務を確実に遂行する。また、ICTも活用し、事務処理等に係る過剰な業務の「あ・す・か・ぶ・た」を推進するとともに、各教務課作業のマニュアル化を図る。	月あたり時間外在校等時間を前年度から削減する。(R4:41.6時間)	職員・生徒の朝礼連絡用ポータルサイト、オンライン欠席連絡、自動採点システムを導入し、時間外業務を削減することができた。 月あたり時間外在校等時間:34.5時間(R5.4~R6.1) (43.1時間(R4.4~R5.1))	B
広報情報課	オープンスクールや学校評価等の事務処理の効率化を図る。	・オープンスクールの申し込み方法をGoogle Formsに変更する。 ・学校評価等をペーパーレス化する。	オープンスクールの申し込み方法を変更し、処理もスムーズに行えた。現在行っている学校評価のまとめ・報告は、ペーパーレスで行ったが、担当者が変わったため、負担軽減には至っていない。	B
生活課	各クラス、学年集会、全校集会等で規範意識の重要性を認識させることで各種指導の減少を図り、スムーズに業務を遂行する。	学校評価アンケート(生徒)の項目「社会のルールや日常生活のマナーといった基本的生活習慣が身につくように指導してくれている」で肯定的な回答が前年度を上回る。(R4:83%)	学校評価アンケートは、R5:83%と昨年度と同じであった。ルールや日常生活のマナーなど規範意識を高めることが各種指導の予防につながるため、粘り強く声かけをしながら、機会を捉えて指導していきたい。	B
びぜんのまち活性化プロジェクト推進室	・学年団、備前市及び関係団体と連携し、円滑な業務運営を実践する。 ・会議を適切に設定するとともに、継続的な活動を意識した資料作成および蓄積を行う。	・効果的な推進会議の開催と、室全体での情報共有を行う。	チャーター制を導入し、前年度経験者が助言することで、担当者が初めてでも、何とか対応することができた。社会貢献活動の業務移管への対応は、電子化によるところが大きい。イベント毎に必要なに応じて進路課や各年次団と打合せ、共同運営を実施した。	A
学年団	1年:生徒と向き合う時間を確保する。 2年:生徒と向き合う時間を確保する。 3年:生徒と関わる時間を確保するための基本的な生活習慣の維持・向上	1年:学年会は平均月2回まで、時間は17:00を超えないように 2年:学年会は平均月2回まで、時間は17:00を超えないように 3年:年間出勤者数、欠席ゼロの生徒数の維持・向上、提出物期限厳守指導の徹底、進路決定後の学校生活状況の維持	1年:学年会は4~12月で計14回、会議時間は17:00を超えることがある。 2年:学年会は平均月1回、会議時間は17:00を超えることはない。 3年:欠席ゼロ9名、課題提出期限厳守はできている。	1年 B 2年 A 3年 C